

「親鸞聖人遠流の地 居多ヶ浜」



真宗大谷派

# 高田別院

## 周辺案内の略図



## 私たちの浄土真宗

- |         |   |
|---------|---|
| 【本尊】    | あみだにょらい<br>阿弥陀如来  |
| 【正依の經典】 | ぶつせつむりょうじゆきやう<br>佛説無量寿經<br>ぶつせつかんわりやうじゆきやう<br>佛説観無量寿經<br>ぶつせつあみだきやう<br>佛説阿弥陀經 |
| 【宗祖】    | しんらんしやうにん<br>親鸞聖人   |
| 【宗派名】   | しんしやうおおたには<br>真宗大谷派   |
| 【本山】    | しんしやうほんびやう<br>真宗本廟(東本願寺)  |

しんしやうおおたには たかだべついん  
真宗大谷派 高田別院  
〒943-0892 上越市寺町2丁目24番4号  
電話 025(523)2465  
<http://takadabetuin.himenokuni.com/>

2005年4月作成

## 高田別院のあゆみ

- 【1207(承元元年) 親鸞聖人「承元の法難」により越後に遠流】
- 1731(享保15年) 真宗寺地内に仮御堂建立(別院の前身)
- 1737(元文2年) 現在地に本堂・御食堂・台所・総会所・鐘楼等建立
- 1827(文政10年) 大門再建
- 1838(天保9年) 鐘楼再建
- 1876(明治9年) 東本願寺高田別院と改称
- 1883(明治16年) 尾神嶽殉難事故
- 1948(昭和23年) 高田大谷保育園開設
- 1959(昭和34年) 本堂再建
- 2004(平成16年) 高田別院会館再建
- 【2007(平成19年) 親鸞聖人遠流800年】

## 月例・年中行事

◆毎月12日・27日 御命日の法話

- |       |  |
|-------|--|
| 1月    | しゆしやうぎ<br>修正会                                |
| 2月～4月 | ごまいじやうにやうしやうにん<br>御影(乗如上人)巡回法座               |
| 3月    | ひがんえ<br>春彼岸会                                 |
| 4月    | はるのほふみ<br>春の法要                               |
| 7月    | なつのおんぶん<br>夏の御文                              |
| 8月    | あしたのこうざ・ふせんのかね<br>暁天講座・不戦の鐘<br>うらぼんえ<br>盂蘭盆会 |
| 9月    | あきのはら<br>秋彼岸会                                |
| 10月   | ほうおんこう<br>報恩講                                |



乗如上人御影

## 別院納骨のご案内

しんしやうもんとう  
真宗門徒である私たちは、本山や大谷祖廟へ納骨し、  
参詣を通して、親鸞聖人に出会い、俱にひとつの処に会  
う世界(浄土)を見出していくことが願われているのです。  
高田別院では、納骨された御遺骨の一部を大谷祖廟に  
納め、また別院納骨者法要を勤めております。納骨は年  
間を通じ受付けております。詳しくはお問い合わせください。



## 越後と親鸞聖人

一一〇七（承元元）年に師の法然上人は土佐の国へ、親鸞聖人はこの越後の国へそれぞれ罪人として遠流に処せられました。

海に遠い京都で過ごされていた聖人にとって、この地で日々接したと思われる日本海を通して味わったものに、『教行信証』の「海」の御自釈があります。海は、すべての川の水を受け入れ、そしてすべての水と同じ塩辛い一味にするはたらきをもっています。それと同じように如来の本願力は衆生の苦しみ、悩みを包み込んで功德の海水とするのであります。その感動を聖人は、『正信偈』の中に、「如衆水入海一味」「本願海」「群生海」「功德大宝海」「本願大智海」と表現されています。荒波の海辺にじっと立って「海」の無限のはたらきの中に如来の本願力を感得されたのであります。

聖人は流人としての五年間を、この地に暮らす文字をも知らず、苦しみ悩んで生きていく多くの人々と生活を共にする中で、「仏道を歩むとは何か」ということを、様々な出会いを通して身に知らされたと思像します。それはまた、法然上人があきらかにされた「念仏の教え」を深く確かめ、愚禿積親鸞として歩まれる機縁となったことでしょう。

## 高田別院



### ■ 本堂

1951(昭和26)年の本堂焼失後、鉄筋コンクリート、インド風の耐火建築として1959(昭和34)年に再建された。その後、2004(平成16)年に大改修が行われ、同年10月に落慶法要・蓮如上人五百回御遠忌法要がとめられた。

### ■ 山門

現在の山門は1803(享和3)年に焼失したあと、1872(文政5)年に総樺で再建され、大門と呼ばれるようになった。棟梁竹澤志摩則行の手による中国の故事や十二支彫刻は文化的歴史的に高く評価されている。

### ■ 鐘楼

現在の鐘楼は1838(天保9)年に建立。梵鐘は1783(天明3)年に宮崎勘助氏の寄進による480貫の大鐘。先の大戦で供出したが、戦後埼玉県にて発見され、再びこの地に返る。

## 周辺の聖跡と尾神嶽報尽碑

### ■ 居多ヶ浜

親鸞聖人遠流の地、越後七不思議のひとつ「片葉の葦」の伝承の地でもある。

### ■ 恵信尼公廟所

(浄土真宗本願寺派国府別院飛地境内)  
親鸞聖人と生涯を共にされた恵信尼公が、建立を願われた五重の石塔であると伝えられている。

### ■ 尾神嶽報尽碑

1883(明治16)年3月12日、本山再建用材搬出中大雪崩が発生し、27名が尊い犠牲となった。1887(明治20)年殉難現場近くに「報尽為期」の碑が建立され、聖跡として顕彰されている。